

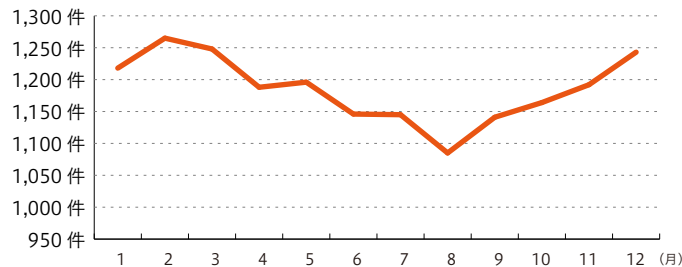
0歳のワンちゃん・ネコちゃんは 誤飲に注意

年齢別 誤飲事故の発生率



0歳で最も発生が多くなっています。

月別 異物誤飲による請求件数



異物誤飲による 年間平均診療費

(アニコム損保へのご請求の一例)

¥ **32,760円**

知っていますか?
ワンちゃん・ネコちゃんが
食べてはいけないもの、
危険なもの



誤飲とは、本来食べるべきではない“もの”を飲み込んでしまう事故です。例えば、焼き鳥などの串、飼い主さまが服用する薬、おもちゃ、タオルなどの布製品、ティッシュなど、「まさかこんなものまで?」とびっくりするような多種多様な“もの”による事故が報告されています。

最悪の場合、消化管に詰まらせて亡くなるケースもあります。

幼児期のワンちゃん・ネコちゃんは、人間の幼児期と同様に好奇心旺盛で、いろいろなものを口にしてしまいます。

日頃からお家のなかの整理整頓を心がけ、悲しい事故が起きないように気をつけましょう。



ワンちゃん

- ワンちゃんは嗅覚が人間の100万倍もあります。目に見えないところに隠すのではなく、ワンちゃんが絶対に届かないところにしまいましょう!
- 戸棚等にしまう場合は、必ず戸を閉めておくことを徹底しましょう!
- 箱や袋に入っている、箱や袋ごと食べてしまうことがありますので油断しないようにしましょう!



ネコちゃん

- 高いところにしまっても、届いてしまう可能性があるため、戸を閉めることを徹底しましょう!
- 動く獲物を捕らえようとする本能があります。特に、長いヒモ状のものを追いかけることが好きです。ヘアゴム、イヤホン、コード類など、ヒモ状の誤飲が多いので、取扱いには十分注意しましょう。誤飲すると重篤になることが多いです。
- おもちゃで遊んでいる際にうっかり飲み込んでしまうことがあるので、目の届く範囲で遊ばせましょう!

植物にも注意!

特に注意! コリ、ポインセチア、シクラメン、チューリップ等

種類によっては中毒をおこすことがあります。葉っぱが落ちていないか等こまめにチェックして、できるだけワンちゃん・ネコちゃんの届かない所に置きましょう。

また、お家にある植物が中毒を起こす可能性がないかをチェックしてみましょう。

誤飲を防ぐために、普段から「貸して」や「ちょうだい」の号令で、口にくわえたものを飼い主さまに渡す練習をしておきましょう。万が一危険なものをくわえてしまっても、冷静に対処することができます。

アニコムのWebマガジン「anicom you」でチェック!



※記載のデータは2014年度に契約を開始した犬456,822頭(0~12歳、性別不明除く)を対象に調査したものです。